

歴史的な建造物や景観が特徴である商店街を中心にしながら、農村部も包括した上下町全体の活性に取り組む。アルベルゴ・ディフーズの考え方を基に、中心部にある中核施設（現在は歴史資料館、今後は新しく出来るゲストハウス）にフロント（基点）機能を持たせ、上下町全体をおもてなし空間として宿・飲食・体験・交流施設を点在させ、町全体を周遊・滞在させていく事を目指す。



【採 択 年 度】
令和元年度

【事業実施期間】
令和元～2年度

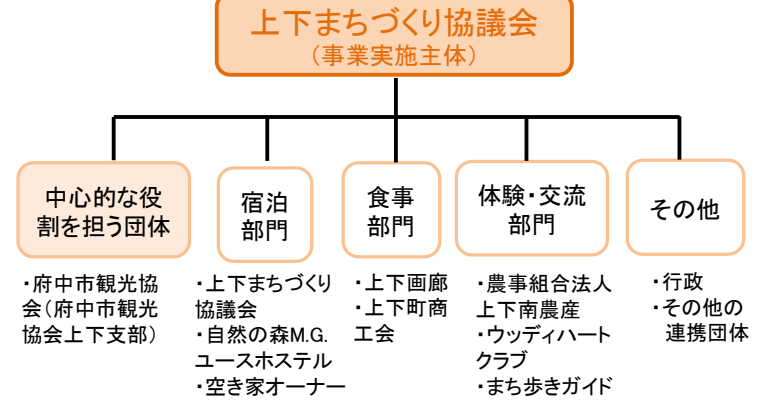


<翁座>大正時代に建てられた芝居小屋



<白壁の町並み>
江戸・明治・大正・昭和の建物が並ぶ商店街

【実施体制】



【特徴的な取組】

- 商店街・農村部に点在する「人」「泊」「食」「体験」資源の連携
- 従来の商店街だけの滞在からツーリズムを地域全体へ展開するため、幅広い業種・世代との連携体制の構築
- インバウンド誘致の強化



<インバウンド誘致の強化>
・広域連携の検討
・情報発信・営業活動



<匠の学校>
幅広い業種・世代との連携体制の構築

【取組内容】

- (1) 商店街・農村部に点在する「人」「泊」「食」「体験」資源の連携
 - ① 先進地視察研修（視察先：岡山県矢掛町）
 - ② 検討会及び地域住民の合意形成・仲間づくりのための場づくり（検討会及び勉強会）
- (2) 幅広い業種・世代との連携体制の構築
 - ① 匠の学校（2回程度）
 - ② 農村部の体験プログラム、及び農産物を活用した商品開発（2～3点）
- (3) インバウンド誘致の強化
 - ① 広域ルートを検討
 - ② 情報発信
 - ③ プロモーション・商談・営業活動

インバウンド対応状況（青：対応）

Wi-Fi	洋式トイレ	キャッシュレス	外国語HP	外国語案内表示	外国語ネット予約
 WIFI	 WC				